

あきる野民報

発行責任者/松平重幸 TEL & FAX 558-0718

住民の利益をまもり、
「住民こそ主人公」の
あきる野市政実現をめざして!

2008.2.24 No.481(毎月2回発行)

日本共産党あきる野市委員会はつぎの見解を発表しました。

「東京から日本共産党の躍進の流れを」

東京演説会に1万2千人が集う。志位委員長の訴えに「頑張るぞー」の声

2月13日江東区の有明コロシアムで開かれた日本共産党大演説会には全都から1万2千人が詰めかけました。あきる野からも大型バスが出、吹きつける冷たい北風について次々乗り込みいっばいに。志位委員長が「日本共産党の綱領が情勢と響き合っている…」とわかりやすく話し、会場は衆議院選挙勝利への熱気に包まれました。あきる野の参加者から次の感想が寄せられています。



東京25区・鈴木治候補

訴える志位委員長

アメリカ力言いなり、財界大企業中心の政治。そして、これらから出てくる多くの矛盾と国民の困難、これについて志位さんは、理に適ったわかりやすい話を縦横にされました。目先が明るくなり大きな力をもたらすと感じてです。

【「法」が悪いと平気で言うキャノンの話が出ましたが、財界を代表する日本経団連はこのように人を会長にし、また政府は経済財政諮問会議の民間委員に任命して重要政策の提言をさせるなど、財界や政府の節操の無さ、日本資本主義の墮落ぶりにはも



スクリーンの12区・池内候補・25才

【引田在佳、西川 晃

比例区と小選挙区候補志位委員長の訴えは、多くが国民の暮らしを守る事を主眼としたものでした。具体的には医療・労働・教育・子育てなどを国民の力で、党の力で改善・向上を目指す事だと思えます。その中で鈴木治二十五区候補は、「横田基地」撤去のために闘う姿勢一点に集中した一分間の訴えでしたが、西多摩という地域性を生かして大変良かったと思います。



たばた あずみ

ちび2歳9ヶ月。一日に何度も飲むほどだすきだったおっぱいを、卒業しました。きっかけはわたしの蕁麻疹。くすりを飲むので母乳は禁止。その旨を伝えると案外かんたんに納得して、それっきりです。2度ばかりベソをかいただけ。すでに母(=おっぱい)なしの外泊もできていたのですが、ふだんは暇なとき悲しいとき眠いときの必需品だったのに。さみしくらいあっさりです。

一ヶ月経ちますが、時々おっぱいにさわったり、飲むまねはするものの、飲みません。「おれ、あかちゃんじゃないから」だそうです。そういう時が、本当に来るのですねえ。ちなみに、赤ちゃんじゃなくなった彼は、「おれ、仮面ライダー」だそうです。(08.2.24)

連絡先は☎550-6674

野良望

寒風ついて 宣伝行動

今度こそ衆議院で躍進を

秋川南支部は毎週街宣



日本共産党秋川南支部は、毎週街頭宣伝を欠かさず行っています。ハンドマイクで宣伝中にピラも配布し、消費税問題、後期高齢者医療問題、などの党の政策を訴え、しんぶん「赤旗」の購読をすすめています。

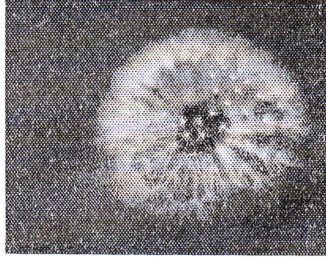
▼「赤旗」1月31日付けの「論壇時評」に誘われて、「アメリカ型グローバリゼーションの終焉」(赤木昭夫・「世界」2月号)と「日本型サブプライム破綻の日」(荻原博子・「文藝春秋」2月号)を読んだ。▼赤木氏は、米が景気浮揚のため人為的につくり出した住宅ローン、信用度の低い人を対象としたサブプライムローンが証券化されて世界中にばらまかれ、結果、その仕組みが破綻し、世界中にそのつけまわしが始まった、これこそグローバリゼーションの終焉だ。と警告する。▼荻原氏は、日本でも10年前に住宅ローンが2%に引き下げられ、収入基準も下げ、頭金なしで借り入れる措置をとった。10年後の今年、4%に引き上げられ、人によつては返済額が2倍になるケースもある。また、民間化されたゆうちょ銀行が信用度が低い人に高い金利での住宅ローンを始めようとしている、これこそ米のサブプライムローンと同じ仕組みだと指摘。▼わかっているやめられない資本主義の暴走を見た。(紀)

「憲法まもれ」—新たな出発にむけて⑬

平和な普通の生活を守っていくために

野辺在住 渡辺照美

私は終戦の一年半前岡山県倉敷市で生まれました。倉敷市は、大地主の大原孫三郎が明治時代に倉敷紡績工場を作りまし...



駐屯させたいという話があったのを「倉敷には紡績女工がいるので風紀が乱れる」と反対し続けた。その結果、倉敷は戦中に米軍の空襲から逃れることができた...

められていきます。一九五〇年の朝鮮戦争時に占領軍命令で「警察予備隊」が作られ、「保安隊」、「自衛隊」と名前を変えて存在し、昨年度、隊員二十七万人、予算四、七兆円、戦車九一〇両、空中給油機、「空母型」護衛艦、クラースタール爆弾まで持っています...

ご覧になりましたか？



山田洋次監督・吉永小百合主演

吉永小百合演じる「母べえ」は、「戦争反対」など一言も言わないのに、戦争前夜のあの恐ろしく重苦しい時代、そして戦争の悲惨さを、画面に映るまわりの人々を通して私たちに訴えかけ、見事に「戦争はイヤ」と感じさせてくれました。

期待をはるかに超えた内容でした。私の生まれる一年前の時代：戦争反対を唱えることが罪となる。この時代に治安維持法違反で検挙された夫を信じ、苦しい生活の中でも明るさを失わず、心豊かに娘達を愛し、父親に勘当されても信念を曲げずに夫の帰りを信じ待ちながら、凜として生きていく母として、女としての姿は神々しくさえ感じました。

輸入づけツケがまわって働きまらざる店長は管理職でも小間使の秋山の良心棄ててハスは行く 速吠えの右翼の叫ぶ哀れにも

元市議会議員の鈴木富雄さんが書き下ろしました。『今、五日市憲法草案が輝く』

Advertisement for the book '今、五日市憲法草案が輝く' by Ritsuko Suzuki. Includes contact info for publisher Hiroki Kaji.

俳句 実千両友より賞ひ仏壇へ 白杖の人に小春の席ゆする 児の背より高さ破魔矢や六置間 世界平和年の始めの願ひごと 北風吹くや病む羊に念ひに行く

歴史探訪 第61回 唐沢武一さんに聞く 昔の二宮③



「養蚕がなかった日の出町から、男も女も随分手伝いにきてもらいました。《桑くれ》といって蚕に桑の葉を食わせる作業です。養蚕は蚕の種を買って育て、桑の葉を食わせ繭に育ったものを出荷するわけです。これも電気が通った事で遅くまで作業ができ、能率が上がり一段と出荷量が増えました。私の家では先代から桑の木がありましたから、明治の始めの頃から養蚕をしていたと思います。生糸を外国へ輸出した事で益々盛んになってゆきました」

隆盛を極めた養蚕業も昭和四年の経済恐慌によって価格が暴落、養蚕家の経営が苦しくなります。アメリカの人絹産業の発達に加え、戦争に突入していった昭和十五年に生産が禁止となります。食料事情の悪化に伴い政府は桑畑を食料作物に転換する施策を出します。「戦争で食糧難になり、桑の木をこいで作物を作れ」という指令があり畑に替えました。しかし作れといっても皆んな供出で持っていけるわけですから、自分達の分は残りの僅かなものでしかありませんでした」